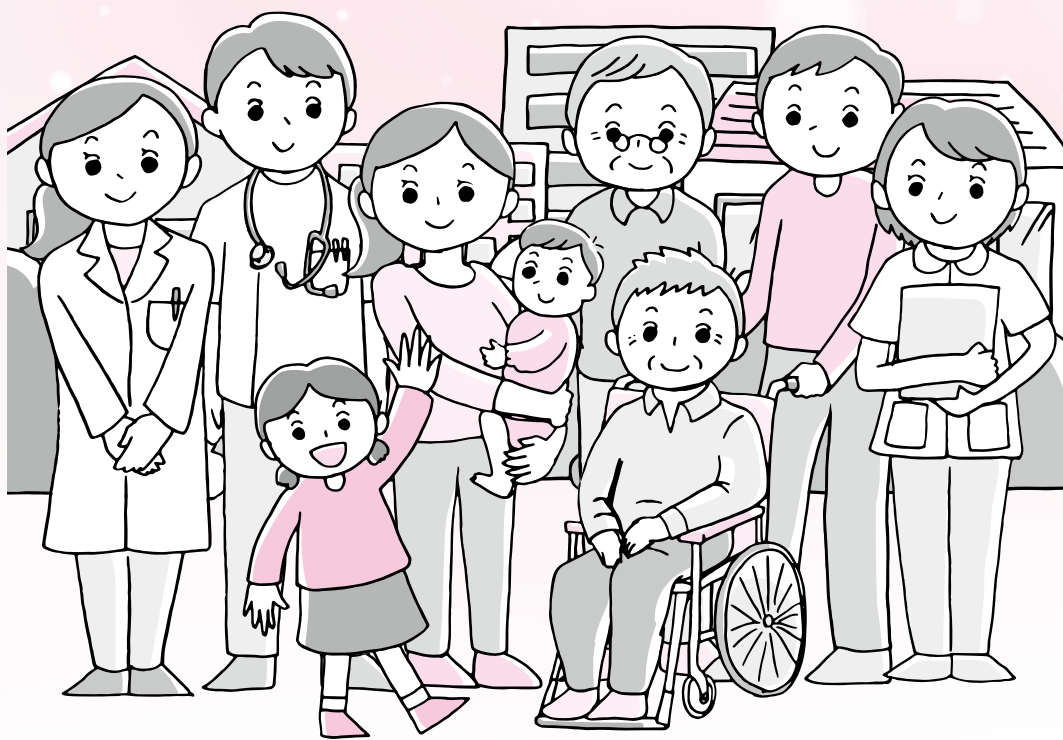


認知症とともに生きていくこのまちで



高齢化の進行とともに認知症は誰もが関わるものとなり、地域や社会全体で取り組むべき課題となっています。市では、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを目指し、さまざまな取り組みを行っています。

高齢化の中で 認知症に対応するために

急速に高齢化が進む中、2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると推計されています。そこで市では、健康寿命を延ばすための施策と同時に、認知症になっても尊厳と希望を持って社会の一員として日常生活を過ごせる共生社会の実現に向けて、次のような取り組みを行っています。

新介護予防教室「人生カッコよくプロジェクト」

認知症をはじめ、フレイル(虚弱)・ロコモティブシンドローム(運動器症候群)も含めて予防する総合的なプログラムです。

エクササイズやタブレット端末を使った脳トレのほか、美術などの創作活動といった幅広い内容を行います。

認知症初期集中支援チーム

認知症の初期段階で集中的に支援するための医療・介護の専門職によるチームです。

認知症を早期発見・早期治療することで、重症化の予防につながります。

そのほかの取り組み

市民の皆さんの身近にある調剤薬局を利用して、認知機能などの低下がチェックできる取り組みを市薬剤師会と連携して行っています。

さらに、認知症に対する正しい知識と理解を広げるため、認知症サポーター養成講座の開催や認知症地域支援推進員の配置など、さまざまな取り組みを進めています。

世界アルツハイマー月間・世界アルツハイマーデー

国際アルツハイマー病協会は、

世界保健機関(WHO)と共同で、毎年9月を「世界アルツハイマー月間」、9月21日を「世界アルツハイマーデー」と定めています。

なりたオレンジプロジェクト

市では、世界アルツハイマー月間に合わせて、認知症に関する啓発活動を行う「なりたオレンジプロジェクト」を実施します。

期間中は、成田山新勝寺や成田空港関連企業、成田市認知症家族の会(オアシスの会)と協働して、認知症への理解を広く呼び掛けます。

オレンジ色は認知症の人を支援するための象徴的な色です。

成田山新勝寺では大本堂をオレンジ色にライトアップし、成田空港では客室乗務員や職員がオレンジ色を身に付けて啓発活動を行います。

市では、認知症の人とその家族を支え、認知症とともに生きていくまちづくりに取り組んでいます。

※くわしくは介護保険課(☎20・1545)へ。